

就労継続支援A型事業所におけるスコア表（全体）

事業所名	カノン
住 所	岩手県盛岡市中央通3-3-2 菱和ビル4-A
電話番号	019-603-4150

事業所番号	0 3 1 0 1 0 2 6 4 5
管理者名	星 みゆき
対象年度	令和7年度

(Ⅰ) 労働時間		
①1日の平均労働時間が7時間以上		40 点
②1日の平均労働時間が6時間以上7時間未満		
③1日の平均労働時間が5時間以上6時間未満		
④1日の平均労働時間が4時間30分以上5時間未満		
⑤1日の平均労働時間が4時間以上4時間30分未満	○	
⑥1日の平均労働時間が3時間以上4時間未満		
⑦1日の平均労働時間が2時間以上3時間未満		
⑧1日の平均労働時間が2時間未満		
①90点 ②80点 ③65点 ④55点 ⑤40点 ⑥30点 ⑦20点 ⑧5点		

(Ⅱ) 生産活動		
①過去3年の生産活動収支がそれぞれ当該各年度に利用者に支払う賞金の総額以上		40

（Ⅲ）多様な働き方（※）		
①免許・資格取得、検定の受検動奨に関する制度		15 点
就業規則等で定めている	○	
②利用者を職員として登用する制度		
就業規則等で定めている	○	
③在宅勤務に係る労働条件及び服務規律		
就業規則等で定めている	○	
④フレックスタイム制に係る労働条件		
就業規則等で定めている		
⑤短時間勤務に係る労働条件		
就業規則等で定めている	○	
⑥時差出勤制度に係る労働条件		
就業規則等で定めている	○	
⑦有給休暇の時間単位取得又は計画的付与制度		
就業規則等で定めている	○	
⑧傷病休暇等の取得に関する事項		
就業規則等で定めている	○	
小計（注1）	7	点

（※）8項目の合計点に応じた点数 （注1）5以上：15点、4～3：5点、2点以下：0点

（Ⅳ）支援力向上（※）		
①研修計画に基づいた外部研修会又は内部研修会		15 点
参加した職員が1人以上参加している	○	
②研修、学会等又は学会誌等において発表		
1回以上の場合	○	
③視察・実習の実施又は受け入れ		
いずれか一方のみの取組を行っている	○	
④販路拡大の商談会等への参加		
1回以上の場合	○	
⑤職員の人事評価制度		
人事評価結果に基づき定期に昇給を判定する制度を設け、全ての職員に周知している	○	
⑥ピアサポーターの配置		5 点
ピアサポーターを職員として配置している		
⑦第三者評価		
過去3年以内の福祉サービス第三者評価を受審しており、結果を公表している。		
⑧国際標準化規格が定めた規格等の認証等		5 点
都道府県知事が適当と認める国際標準化規格が定めた規格その他これに準ずるものの認証を受けている		
小計（注2）	5	点

（※）8項目の合計点に応じた点数 （注2）5以上：15点、4～3：5点、2点以下：0点

（Ⅴ）地域連携活動		
地域の事業者と連携した付加価値の高い商品開発、企業や官公庁等での生産活動等地域社会と連携した活動を行い、その結果をインターネット等により公表している	○	10 点
1事例以上ある場合：10点		

（Ⅵ）経営改善計画		
経営改善計画の提出を求められていない。または、経営改善計画の提出を求められているが、指定された期日までに提出している。	○	0 点
期限内に提出していない場合：-50点		

（Ⅶ）利用者の知識・能力向上		
前年度において、就労継続支援A型事業所等が利用者の知識及び能力の向上に向けた支援を行い、当該支援の具体的な内容を記載した報告書を作成し、インターネットの利用その他の方法により公表している。	○	10 点
1事例以上ある場合：10点		

項目	点数						
労働時間	5点	20点	30点	40点	55点	65点	80点 90点
生産活動	-20点	-10点	20点	40点	50点	60点	
多様な働き方	0点	5点	15点				
支援力向上	0点	5点	15点				
地域連携活動	0点	10点					
経営改善計画	0点	-50点					
利用者の知識・能力向上	0点	10点					

合計

130

点 / 200点

就労継続支援A型事業所におけるスコア表（実績Ⅰ～Ⅳ、Ⅵ）

(Ⅰ) 労働時間

前年度（令和7年度）

雇用契約を締結していた全ての利用者における延べ労働時間	15,112.00	時間	雇用契約を締結していた延べ利用者数	3,621	人	利用者の1日の平均労働時間数	4.17	時間
-----------------------------	-----------	----	-------------------	-------	---	----------------	------	----

(Ⅱ) 生産活動

会計期間（4月～3月）

前々々年度（令和5年度）

生産活動収入から経費を除いた額	-	円	利用者に支払った賃金総額	-	円	収支	#VALUE!	円
-----------------	---	---	--------------	---	---	----	---------	---

前々年度（令和6年度）

生産活動収入から経費を除いた額	-	円	利用者に支払った賃金総額	-	円	収支	#VALUE!	円
-----------------	---	---	--------------	---	---	----	---------	---

前年度（令和7年度）

生産活動収入から経費を除いた額	18,028,825	円	利用者に支払った賃金総額	16,648,303	円	収支	1,380,522	円
-----------------	------------	---	--------------	------------	---	----	-----------	---

(Ⅲ) 多様な働き方

前年度（令和7年度）における取組（全体表「(Ⅲ) 多様な働き方」の各項目において「就業規則等で定めている」と選択した場合に記載）

①免許・資格取得、検定の受検動奨に関する制度

◎免許・資格取得、検定の受検動奨に関する制度を定めている	☒
------------------------------	-------------------------------------

②利用者を職員として登用する制度

◎利用者を職員として登用する制度を定めている	☒
------------------------	-------------------------------------

③在宅勤務に係る労働条件及び服務規律

在宅勤務に係る労働条件及び服務規律に関する制度を定めている	☒
-------------------------------	-------------------------------------

④フレックスタイム制に係る労働条件

◎フレックスタイム制に係る労働条件を定めている	☐
-------------------------	--------------------------

⑤短時間勤務に係る労働条件

◎短時間勤務に係る労働条件を定めている	☐
---------------------	--------------------------

⑥時差出勤制度に係る労働条件

◎時差出勤制度に係る労働条件を定めている	☐
----------------------	--------------------------

⑦有給休暇の時間単位取得又は計画的付与制度

◎有給休暇の時間単位取得または、計画的付与制度を定めている	☒
-------------------------------	-------------------------------------

⑧傷病休暇等の取得に関する事項

◎傷病休暇等の取得に関する事項を定めている	☒
-----------------------	-------------------------------------

(Ⅳ) 支援力向上

前年度（令和7年度）における取組（全体表「(Ⅳ) 支援力向上」の各項目に取組あり選択とした場合に記載）

①研修計画に基づいた外部研修会又は内部研修会

◎研修計画を策定している	☒
◎外部研修、もしくは内部研修を1回以上実施している。	☒
※研修名	利用者支援に関する研修
研修講師	一條仁（杏林大学保健福祉学科講師）
実施日・受講者数	6月20日～7人

②研修、学会等又は学会誌等において発表

◎研修、学会等又は学会誌等において1回以上発表している	☒
※研修、学会等名	イチリッチ実践報告会
実施日	10月14日
※学会誌等名	
掲載日	月 日
発表テーマ	カノンを開所してから現在までの様子

③視察・実習の実施又は受け入れ

◎先進的事業者の視察・実習の実施している	☐
もしくは、他の事業所の視察・実習を受け入れている	☐
※先進的事業者名	
実施日/参加者数	月 日 人
※他の事業所名	緑生園
実施日/参加者数	4月7日 1人

④販路拡大の商談会等への参加

◎販路拡大の商談会や展示会等へ1回以上参加している。	☒
※商談会等名	Workin みんなのお仕事相談会in矢
主催者名	株式会社広済堂 ビジネスサポート盛岡営業所
日時	4月22日
内容	販路拡大のための名刺交換会、交流会

⑤職員の人事評価制度

◎職員の人事評価制度を整備している	☒
◎当該人事評価制度を周知している	☒
人事評価制度の制定日	令和3年3月1日
人事評価制度の対象職員数	6名
うち昇給・昇格を行った者	0名
当該人事評価制度の周知方法	
人事評価実施の案内を全事業所に掲示。同案内を全社メールにて通知。	

⑥ピアサポーターの配置

◎ピアサポーターを配置している	☐
◎当該ピアサポーターは「障害者ピアサポーター研修」を受講している	☐
※配置期間	月 日～月 日
就業時間	
職務内容	

⑦第三者評価

◎前年度末日から過去3年以内に福祉サービス第三者評価を受けている	☐
※評価を受けた日	月 日
第三者評価機関	

⑧国際標準化規格が定めた規格等の認証等

◎ISOが制定したマネジメント規格等の認証を受けている	☐
※認証を受けた日	月 日
規格等の内容	

(Ⅵ) 経営改善計画

◎指定権者である都道府県（指定都市・中核市）へ、経営改善計画書へ提出した。	☐
※受理日	年 月 日
※経営改善計画の提出を求められていない。	

各項目について適宜、実績がわかる情報を追加すること。

就労継続支援A型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	カノン	事業所番号	310102645
住所	岩手県盛岡市中央通3-3-2 菱和ビル4-A	管理者名	大坪 亜希子
電話番号	019-613-4150	対象年度	令和7年度

地域連携活動の概要

〈活動内容〉

活動場所： 株式会社いわて若江農園

実施日程： 令和7年4月1日～現在

実施した生産活動・施設外就労の概要：

月・水・金 4時間作業

・生協や産直、スーパーに卸すトマトのパック詰め作業

利用者3名

〈活動の様子〉



葉や枝の剪定作業と、切り落とした後の回収作業の様子です。

〈目的〉

地域企業に対し、施設外就労を通じて障がい者の能力や可能性を直接理解する機会を提供する。利用者には地域の一員として社会参加を実感し、働く意欲の向上に繋げることを目的としている。地域企業の人手不足解消や業務効率化に貢献することができる。また、利用者の能力を活かせる業務で企業側のニーズに応えることができる。一般就労における規律や知識を身に付けることができ、地域社会への解像度を上げることにつながる。

〈成果〉

就労継続支援における施設外就労制度が、地域社会に対してどのような役割を果たしているのかを具体的に示す良い機会となった。また、福祉の意義や重要性について理解を深めて頂ける機会となった。

消費者が直接口にするものであるため衛生的な観点などで注意が必要であるが、普段スーパーで見かける食材がどのようにして生産者から私たちのもとに届いているかを知ること、より安全な商品にできるよう心がけることができた。自分が消費者の立場ならこの商品を買いたいかなど想像力を働かせることにも繋がった。

若江農園様のみならずその他の地域企業とも信頼関係を築き、地域全体で障がい者を支える体制づくりを強化していかなくてはならない。



何本にも枝分かれしている葉や枝を間引いていきます。すべてを切り落としてしまうと葉の葉緑体で光合成できなくなるため、切り落とす葉の枚数は定めて作業しています。栄養を行きわたらせ、日光がよく当たるようにします。

連携先の企業等の意見または評価			
当園としても初めての連携であり、試行錯誤的にスタートした。まずは頼めそうな仕事として、ミニトマトのパッキングとトマトの葉欠きを候補として作業してもらった。パッキングについてはキズの確認等が難しい側面もあり、途中で断念したが、下葉欠きについては十分に仕事をしてもらっていると感じている。 利用者さんや職員さんにわかりやすい作業指示を出すことが大事で、試行錯誤的に言い改善してきたが、まだ改善の余地がある。また初見での仕事の難しさは当然あって、利用者さんも職員さんも当園の仕事の仕方、やり方に慣れてもらい、慣れた人が継続して仕事できるとよいと感じる。			
連携先企業名	株式会社いわて若江農園	担当者名	若江 俊英 様

就労継続支援 A 型事業所における利用者の知識・能力向上に係る実施状況報告書

事業所名	カノン
住所	岩手県盛岡市中央通3-3-2 菱和ビル4-A
電話番号	019-613-4150

事業所番号	310102645
管理者名	大坪 亜希子
対象年度	令和7年度

利用者の知識・能力向上に係る実施概要

〈活動内容〉

活動場所： 富士フィルムヘルスケアマニュファクチャリング株式会社 花巻工場
 実施日程： 2025年11月7日 14時00分～14時30分
 実施した取り組みの概要：
 教育担当の熊谷様より、危険予知訓練（KYT）などの演習を通した研修を実施。

4 人

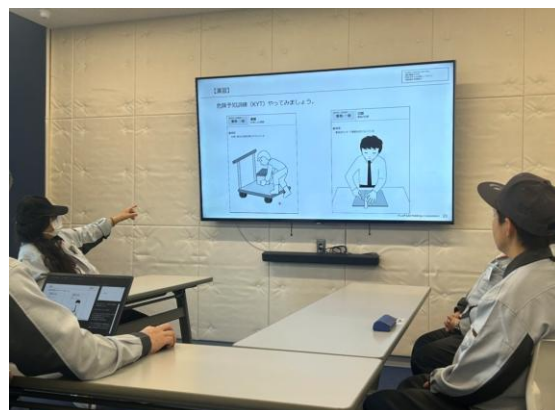
〈目的〉

一般就労に向け、現場の安全管理・環境整備について学んでいただき、どの職業に就いても応用できる基盤を作る。

〈成果〉

労働安全衛生法の遵守はもちろん、障害を持つ方が作業する上で潜在的な危険を排除し、安全を確保するための具体的な対策を考えることができた。危険な作業環境ではないか、特に判断に特性を持つ方にとって分かりやすくリスクの洗い出しをする良い機会となった。
 利用者からは、身の回りの安全について改めて考えるきっかけになった。いつも身に付けて作業している手袋が、どんな意味合いがあってつけているものなのか再確認出来たなどの声が上がった。

〈活動の様子〉



危険な箇所についてグループで話し合い、発表を行った。

連携先の企業や事業所等の意見または評価			
職場の安全というのはどんな仕事でも共通して意識しなければいけないことであり、どんな危険があるのか、どうすれば回避できるのかなどということを自分で考え、また周囲と相談して見つけることで作業・業務における危険予知能力の向上を目的に本研修を行いました。 みなさんが自分で考え、周囲と話し合いながら発表するなど積極的に研修に臨んでいたと思います。こちらがひとり1個の回答を想定したつもりだったが、ひとりで複数個回答するなど意欲をもって取り組んでおり、とても良かったと思います。			
連携先企業名	富士フイルムヘルスケアマニュファクチャリング株式会社 花巻工場	担当者名	大向 南 様
利用者からの意見・評価			
利用者K 分かっていてもやっていなかったことがあったため、改めて安全対策の必要性について学ぶことが出来て良かった。 利用者I 大丈夫が事故につながることが分かったため、日頃から緊張感をもって仕事がしたい。 利用者S またこのような研修を受けてみたいと思った。			